



ActiveImage Protector 2016

WSFC インストールガイド 第1版 - 2016年2月1日

このインストールガイドは WSFC (Windows Server Failover Cluster) で構築されたクラスター環境への ActiveImage Protector 2016 (以降 AIP と略記します) のインストールと運用を説明します。

クラスタリングは稼働系と待機系が存在する標準的な 2 ノード構成を基準として作成しています。各項目の具体的な手順は、AIP のヘルプを参照してください。

Copyright 2016 NetJapan, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社ネットジャパンに所有権および著作権があります。

ActiveImage Protector、ActiveImage Protector Server、ActiveImage Protector Desktop、ActiveImage Protector IT Pro、ActiveImage Protector for Hyper-V with SHR、ActiveImage Protector for Hyper-V Enterprise、ReZoom、ActiveImage Protector Linux、ActiveImage Protector Virtual、ActiveImage Protector Cluster、ActiveImage Protector Cloud、ActiveImage Protector Basic、ImageBoot、ImageCenter LE は株式会社ネットジャパンの商標です。

1. インストール

- ・ AIP は稼働系と待機系で別々にインストールして運用します。
 - ・ システムディスクのみのバックアップ構成の場合は、片ノードのみ、または両ノードにインストールすることができますが、クラスターディスクを増分バックアップする場合は、必ず両ノードに AIP をインストールしてバックアップスケジュールを作成してください。
 - ・ AIP のインストール先は、稼働系と待機系のローカルディスクを指定します。
-

2. バックアップ(スケジュールの作成)と通常の運用

- ・ クラスターディスク(クォーラムディスク)を増分バックアップする場合は、両ノードでスケジュールを作成して、バックアップ対象に指定する必要があります。
- ・ バックアップ対象の選択は[ボリューム]を指定してバックアップ対象を選択してください。



- ・ クラスタードискを両ノードでバックアップする場合は、次の設定が必要です。
バックアップウィザード → [保存先の指定] → [高度な設定] → [アクセス不能のボリュームを無視する] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。

バックアップの高度な設定:

一般設定

イメージを 0 MB 毎に分割する

不良セクターを無視する

MDS ファイルを作成する

アクセス不能のボリュームを無視する

バックアップ終了後にイメージ ファイルを検証する

ネットワーク ストットルを使用する

0 (最大 KB/秒)

ネットワークへの書き込み時にキャッシュを使用する

スクリプト

スナップショット実行前に実行するスクリプト: タイムアウト

... 30 分

スナップショット実行後に実行するスクリプト:

... 30 分

イメージ ファイル作成後に実行するスクリプト:

... 30 分

バックアップ タスクの実行エラー時でも指定したスクリプトを全て実行する

重複排除圧縮

実行前に一時ファイル フォルダに必要な空き領域が不足している場合:

自動的に代替フォルダへ切り替える

[通常圧縮]の設定でバックアップを継続する

- ・ 待機系はディスクリソースを持たないため、クラスタードискのバックアップスケジュールを作成することができません。このような場合は、フェイルオーバーを実行して、待機系でディスクリソースを所有している状態でバックアップスケジュールを作成してください。
- ・ 両ノードでクラスタードискをバックアップした場合、ディスクリソースを所有しない待機系では、クラスタードискのバックアップはスキップされます。クラスタードискはディスクリソースを所有する稼働系でバックアップされます。
- ・ フェイルオーバー実行中のバックアップについては、動作保証していません。
フェイルオーバー完了後に Windows が安定稼働した状態でバックアップを実行してください。

3. イメージの復元

3-1 Windows のシステムディスクを復元する場合

- (1) 復元するノードを起動環境のメディア (Boot Environment) でブートします。
このとき、残りのノードが稼働系として動作します。
- (2) 復元が完了したらサーバーを再起動します。
- (3) 復元したノードは待機系として動作します。

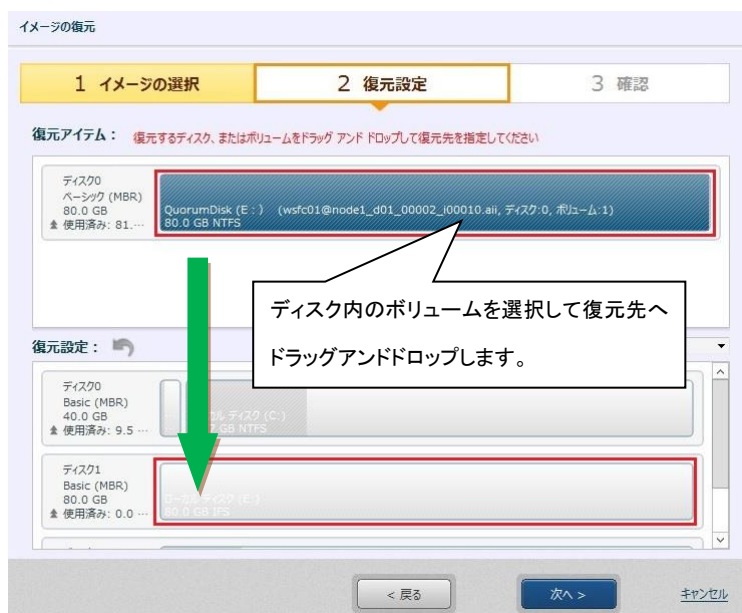
3-2 クラスタードискを復元する場合

パターン A. 起動環境のメディアを使用する方法 (コールドリストア)

- (1) 両ノードの Windows をシャットダウンします。
- (2) 稼働系を起動環境のメディア (Boot Environment) でブートします。
- (3) クラスタードискを復元します。
- (4) 復元が完了したら、稼働系のサーバーを再起動します。
- (5) 続けて、待機系のサーバーを起動します。

パターン B. Windows 上の AIP のコンソールを使用する方法 (ホットリストア)

- (1) 稼働系の Windows で AIP のコンソールを起動します。
- (2) 復元メニューからクラスタードискを復元します。
復元は必ずボリューム単位で実行してください。(ディスク全体で復元はできません)



- (3) 復元の完了後は、そのままシステムを運用することができます。

■ 注意事項

- 復元の実行中はクラスターディスクにアクセスできません。
- クラスター稼働中にクォーラムディスクを上書き復元した場合は、復元の完了後にイベント ID1069 のエラーと 1558 の警告がクラスターイベントに記録されます。対処方法は下記のマイクロソフト社のナレッジをご確認ください。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2787228>

上記は復旧手順の一例です。

運用を開始する前にお客様の環境に沿った復旧のシナリオを確立してください。